

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2772301467
法人名	桂商事 株式会社
事業所名	グループホーム 阿倍野
所在地	〒545-0022 大阪府大阪市阿倍野区播磨町1丁目20-3 (電話) 06-6622-8510

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年10月16日
評価確定日	平成21年11月18日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 11 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 16 人	

### (2) 建物概要

建物構造	耐火建築物鉄骨 造り	
	5 階建ての	3 階 ~ 4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有( ) 無(期間5年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

### (4) 利用者の概要( 9 月 11 日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人錦秀会の全病院、行徳歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは、駅から近く幹線道路沿いにあり、5階建てビルの3階4階を使用しています。ホーム内は、バリアフリーで広い空間がありアイランドキッチンを中心に居室があり入居者が炊事に参加しやすく、職員の見守りが容易になる様に考えられています。また、ベンチやソファ、テーブルがゆったりと配置されおり、利用者は日中をお気に入りの所で過ごし、皆が集まりやすく楽しく生活ができるよう工夫されています。屋上は広い広場となっており廻りには木々を植え、木製のテーブルとイスが多く設置されており、日々の散歩やバーベキュー大会や餅つき大会を行うなど活発に活用しています。また、小キッチンやトイレも設置しており、入居者が利用しやすい配慮がなされています。また、職員は、日々利用者として生活する中で利用者本位のゆったりとした時間を過ごせるよう、職員で多くの話し合いを持つ事で協力体制を構築しながら前向きに取り組み楽しく過ごされているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題評価であった自己評価票を全職員で取り組みました。全職員で取り組むことで協力体制ができ、出来ることから改善に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、意識付けるために全職員に配布し、記入してもらった皆の思いを取り入れ管理者がまとめました。作成後は、全職員に配布しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や地域ネットワーク委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を3か月に1回を目標として開催しています。ホームの様子や状況を伝え行事の写真を見てもらい参加者から質疑応答や地域の行事を教えてください相談や意見交換をしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム入口に意見箱を置いています。家族の来訪時や家族会、運営推進会議に参加があり話しやすい雰囲気でも何でも話せる関係が構築されています。意見や要望があれば家族と話し合い相談しながら改善策を見つけ、職員との申し送りノートで共有しケアに反映しています。また、昨年度まで実施していた家族アンケートを再開したいと考えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に住宅が少なく自治会には加入していませんが、地域で買い物をして店員さんと挨拶を交わっています。地域の掲示板や運営推進会議を通じて行事を教えてください出来るだけ参加できるように努めています。また、年に3~4回幼稚園時や保育園児の来訪があり積極的に交流しています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基にして「のんびりと気持ち安らぐあかしん家」とのホーム独自の標語を理念としています。わかりやすく自分の家だったらどのように暮らしたいかとの思いから職員で話し合い作成しました。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアに貼り絵で作られた理念が掲示されています。誰もが目に着きやすくしています。また、管理者の指導の下、スタッフが理念に基づいたケアの実践に日々取り組んでいます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に住宅が少なく自治会には加入していませんが、地域で買い物をして店員と挨拶を交わしています。地域の掲示板や運営推進会議を通じて行事を教えてください出来るだけ参加できるように努めています。また、幼稚園や保育園からの来訪が年に3~4回あり積極的に交流しています。	○	地域的に難しいですが、ホームでの行事に地域の方を招待するなど交流の場が今以上に増えるように検討されてははいかがでしょうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価票は意識付けを図るために全職員に配布し、記入してもらった皆の思いを取り入れ管理者がまとめました。作成後は全職員に配布しています。前回の外部評価を受けて自己評価票を全職員で取り組み改善に努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域ネットワーク委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を開催しています。今後は3か月に1回を目標に開催したいと思っています。ホームの様子や状況を伝え行事の写真を見てもらい参加者から質疑応答や地域の行事を教えてください相談や意見交換をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員を通じて連絡を取っています。運営推進会議に参加があり相談などをしてサービスの向上に努めています。また、保健所の管理栄養士に献立を見てもらいアドバイスを頂き、職員は栄養についての勉強会に参加しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に「ひまわり新聞」やホームでの様子を職員が手書きの手紙に添えて送付しています。家族からお礼の手紙が届く程喜ばれるものとなっています。また、家族の来訪時には、直接コミュニケーションを取り何でも話してもらえる機会を持ち、電話でも頻繁に連絡を取り安心されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に意見箱を置き、家族の来訪時や家族会、運営推進会議に参加があり、話しやすい雰囲気でも何でも話せる関係が構築されています。意見や要望があれば家族と話し合い相談しながら改善策を見つけ、職員との申し送りノートで共有しケアに反映しています。また、昨年度まで実施していた家族アンケートを再開したいと考えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は上下関係を持たず、日々何でも話してもらえるように心がけ、法人と職員が連休が取れるようように話合っています。異動はありますが、離職は少なく新任職員が入ってきたら現任職員に付いて対応やケアの方法を教わりながら統一できるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣の同法人のグループホームと一緒に毎月研修をしています。職員から学びたい事やホームから学んでほしい事をテーマに取り上げ年間計画を作成し担当職員が講師になり研修をしています。参加できなかった職員には資料を残し見てもらっています。また、外部研修では、個人での参加や資格修得のためシフト調整し参加ができるようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに参加しています。食事などについての勉強会や各ホームでの事例発表があり、意見交換や情報交流をして交流しています。また、近隣の法人とは日々交流してサービスの向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、利用者一人ひとりの状況に応じて見学や体験入居を利用してもらっています。入居が決まれば家庭訪問をして利用者や家族から多くの情報を得ながら馴染んでもらえるようにしています。また、入居後は居室に馴染みのものを持ってきてもらい自然に馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々利用者と一緒に生活する中で、食事の準備や洗濯物たたみ、戦争体験など会話の中から多くの事を学んでいます。家族のような関係作りに努め利用者職員が協力しながら生活を送り支え合っています。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に利用者や家族から多くの情報を得ています。日々コミュニケーションを取りながら意向や思いが把握できるように努めています。また、意思表示が難しい利用者には、表情やさりげない言葉なども見逃さず、職員が利用者の立場になって把握できるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを基に利用者や家族の意見、要望を聞き日々利用者の行動も把握しながらカンファレンスで話し合い、全職員からの意見も取り入れた介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしています。利用者の状態や日々の言動を見ながら随時、介護計画の見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や理美容への付き添いなど利用者一人ひとりの希望や要望に応じて個別の支援をしています。今後、更に利用者の希望に沿って行きたい所へ行けるよう取り組みたいと考えています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前のかかりつけ医を継続できることを説明しています。地域の医師と24時間訪問診療が可能な体制があり利用者に応じて受診に行ったり往診に来てもらうなど、身体状況に応じた医療が受けられるようにしています。週に1回、訪問歯科と歯科衛生士による口腔ケアや必要に応じて接骨医を利用しマッサージやリハビリに来てもらっています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用前、重度化してもホームで過ごせる事を家族に説明しています。終末期に関しては今は取り組まれていませんが、現在も重度化した利用者がおられ、家族や医療関係者などと方針を話し合い取り組んでいます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	敬語での会話を基本としています。職員が嫌なことは利用者にはしないように管理者は話し、尊厳についての本を職員に読んでもらっています。言葉使いが乱れた時にはその都度注意しています。個人情報の記録物は、鍵の掛かる事務所の本棚に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や買い物などは決まっていますが、利用者のペースやリズムを大切に日々の送る様に支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを聞きながら職員が献立を決めています。配達される食材を利用者と職員と一緒にキッチンに立ち野菜を切ったり後片付けをしています。また、職員も同じテーブルに着き同じものを食べ、会話を楽しみながら自然な流れで声掛けし食事介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、朝から夕食時間前まで入浴ができるように準備しています。希望があれば毎日の入浴や他のユニットでの入浴も可能です。また、機械浴の設置や利用者に応じてシャンプーやボディソープを用意しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴や好きな事を役割としています。洗濯たみや食事の準備、亀や金魚のえさやりなど楽しみとなっています。また、以前から弾いていたピアノを弾きながらみんなで歌を歌ったり、新聞を読む、外出が好きな利用者には出掛けられるように個々に合わせた支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、散歩や買い物に出かけています。ホームの屋上では、池で金魚が飼われ、木が植えられベンチが設けられ気分転換や運動がてらには最高の場所となっており、バーベキューや外気浴を楽しみ、餅つき大会も予定されています。また、希望に沿って一人ひとりが外出できる機会をもっと作りたいと考えています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット入口の鍵は掛けていませんが、エレベーターはテンキーでロックされています。見守りを怠らず居場所を把握し、出かけた様子を見かけたら声掛けし一緒に出かけるようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、避難訓練を1年に1回行っています。ホーム独自でも夜間想定でしています。また、ホーム近隣には民家が少なく住民との協力体制はこれからですが、近隣にある法人とは協力体制が出来ていません。	○	地域の協力を課題とされています。運営推進会議を通じて協力体制を求めたり、ホームでの行事に地域の方を招待するなどホームを知ってもらうことから始めてみてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事は記録しています。水分量は、3階は必要な方のみ4階は全員記録しています。嚥下や咀嚼状況に応じて刻み食やトロミ食、ミキサー食の提供をしています。また、検食簿を付け管理者が確認し、保健所の管理栄養士に献立を見てもらいカロリー計算やアドバイスを頂いています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前や玄関にはベンチ椅子が設けてあり、利用者同士や一人でもゆっくりと過ごせる空間があります。アイランドキッチンを中心にあるリビングでは、全体が見渡せ料理の匂いや生活感がわかり、テレビ前にはソファがあり居心地よく過ごせるように工夫しています。また、観葉植物や園児から頂いた寄せ書き、季節に応じた貼り絵が飾られています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり、トイレと洗面所が設置されています。今まで使っていたベッドや布団、箆笥、衣装ケース、椅子、ぬいぐるみなど家族と相談しながら持ってきてもらい、居心地よく過ごせるように工夫しています。		